

NetKids

Traffic Scope V3.1 ユーザーズガイド

株式会社 アイ・エス・ティ

商標

NetKids は株式会社アイ・エス・ティの登録商標です。

MS-DOS、Windows、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Server 2012 は、米国とその他の国の両方またはいずれかにおける Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Novell、NetWare は、Novell,Inc.の登録商標です。

Apple、AppleTalk、EtherTalk、Macintosh は、Apple Computer,Inc.の登録商標です。

本書で言及されているその他の製品またはサービス名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

版權

NetKids Traffic Scope V3.1 ユーザーズガイド

著作権、2006 年 10 月、株式会社アイ・エス・ティ、不許複製

改訂履歴

版番号	改訂箇所	改訂日 IST	改訂内容
1.0		2010/10/16	V3.1 に合わせて改定
1.1	2 章	2014/05/19	V3.1.2 対応 OS 更新、無制限版ライセンス記述追加

目次

1 はじめに	3
1.1 NetKids Traffic Scope V3 とは	3
1.2 主な機能	3
1.2.1 特徴	3
1.2.2 主な機能	4
2 インストール	5
2.1 動作環境	5
2.2 インストール	6
2.3 制限事項	6
2.4 ユーザ登録	7
2.5 サポート	9
2.6 ヘルプ	9
3 クイックスタート	10
4 Traffic Scopeの使い方	11
4.1 ノードの追加	11
4.1.1 ノード追加	11
4.1.2 検索による追加	11
4.1.3 接続先を指定して追加	12
4.1.4 ノードの削除	12
4.1.5 しきい値の設定	13
4.2 画面構成	14
4.2.1 メイン画面	14
4.2.2 Traffic Scope の動作	15
4.2.3 プログラムの終了	15
4.2.4 カラム項目の説明	16
4.2.5 ツールバー	17
4.2.6 アイコンの説明	18
4.2.7 ログウィンドウ	19
4.2.8 インターフェイス情報の表示	20
4.2.9 インターフェイス速度の変更	20
4.3 表示モードの変更	21
4.3.1 グラフの変更	21
4.3.2 表示オプションの変更	22
4.3.3 インターフェイスの表示・非表示	23
4.3.4 カラム項目の変更	23
4.3.5 表示順の変更	24
4.3.6 ノードリストの表示順の変更	24
4.4 通信設定（オプション設定）	25

4.4.1 通信設定	25
4.4.2 SNMPデータ取得	28
4.4.3 情報の更新	28
4.5 通知設定（オプション設定）	29
4.5.1 通知設定	29
4.5.2 通知方法、オプションの設定：	30
4.5.3 テンプレート型メール通知について	32
4.6 ログファイル（オプション設定）	34
4.6.1 ログの記録	34
4.6.2 Traffic Scopeデータファイル	34
4.7 パスワード設定（オプション設定）	35
4.7.1 パスワード設定	35
4.7.2 パスワード変更	35
4.8 印刷	36
4.8.1 印刷	36
4.8.2 ヘッダー／フッターの設定	37
4.9 その他	38
4.9.1 すべてコピー	38
4.9.2 テキストファイルに保存	38
4.10 レポート	39
4.10.1 トラフィック統計レポート	39
4.10.2 アラーム統計レポート	41
4.11 Web対応機能	42
5 付録	43
5.1 SNMPエージェントの設定方法	43
5.1.1 Windows PCに SNMPエージェントをインストールする方法	43
5.1.2 YAMAHA RTシリーズにて SNMPエージェントを有効とする方法	44
5.1.3 Cisco社製のルータシリーズにて SNMPエージェントを有効とする方法	44
5.2 Traffic Scopeのログファイル仕様	45
5.3 パトライトによる通知機能	45

1 はじめに

1.1 NetKids Traffic Scope V3 とは

NetKids はネットワーク監視・管理を目的として開発されたシステム管理者のためのサポートツール群です。

NetKids Traffic Scope はネットワーク管理のために使用される SNMP プロトコルを使って管理対象ノードのトラフィック情報を常に監視し、受信/送信使用率、エラーパケット数などに対し、閾値を設け、異常があったとき、アラームとして管理担当者に通知します。また、トラフィック情報とアラーム情報をレポートすることができます。ルーターやスイッチングハブなどの、ネットワーク機器のインターフェース毎のトラフィック情報をわかりやすいグラフにして表示します。

NetKids Traffic Scope を使用することで、一般的には把握しにくい ネットワーク - インターネット間の通信量を簡単に調べることができ、トラフィックの把握に役立てることができます。

回線増強前と増強後の回線使用率を調べることで、どの程度効果があったのかといったことを実データによって提示することなども可能になります。

1.2 主な機能

1.2.1 特徴

- SNMPインターフェース情報を定期的に監視することでネットワーク機器への入力、出力のトラフィックが簡単に計測できます。
- トラフィック計測専用のSNMPマネージャであるため最適化された SNMPパケットを生成することで、高速にインターフェース情報を取得できます。
- インストール後、すぐに使えるように、セグメント内であれば、自動的にSNMPエージェントを検索します。
- ライセンスを追加する事で一度に複数のネットワーク機器が監視できます。
- 各ポート毎にしきい値を設定する事が出来、異常トラフィックやエラーを見逃しません。
- エラー発生時の通知は、メッセージ表示、電子メール、サウンド再生、アプリケーション起動、SNMPトラップ生成などが利用できます。機器毎の通知設定ができます。
- SNMP V1(32bitカウンタ), SNMP V2c(64bitカウンタ), SNMP V3(64bitカウンタ)によるデータ取得をサポートします。
- レポート機能により、ポート毎のトラッキングを行う事ができます。

1.2.2 主な機能

- グラフ表示機能（推移グラフ／使用量グラフ）
- 機器自動検索機能（同一セグメント内、SNMPを使用して取得します。）
- 複数機器監視機能
- しきい値設定機能（受信・送信毎に設定）
- 自動ログウィンドウ表示機能
- 通知機能（メッセージ表示、電子メール、サウンド再生、アプリケーション起動、SNMPトラップ、イベントログ、パトライト等）
- パスワード設定機能
- Web対応機能
- レポート機能（日毎／月毎、送受信同時表示／別表示、詳細レポート、印刷）

2 インストール

2.1 動作環境

＜対応 OS＞

Windows Server 2003/R2
Windows Server 2008/R2
Windows Server 2012/R2
Windows XP
Windows Vista
Windows 7
Windows 8/8.1

＜最小システム構成＞

CPU : Pentium 4 以上
メモリ : 512MB 以上
ハードディスク : 20MB 以上+ログ保存領域

＜推奨システム構成＞

CPU Pentium4 3GHz 相当以上
メモリ 1GB 以上

※※※ UAC(User Account Control)機能についての注意

TrafficScope をインストールしている PC 上で UAC 機能が有効な場合は、ショートカットを起動する時に「管理者として実行」を行って起動してください。

〔対象のショートカット〕

・NetKids TrafficScope

〔管理者として実行の方法〕

次のいずれかを実行してください。

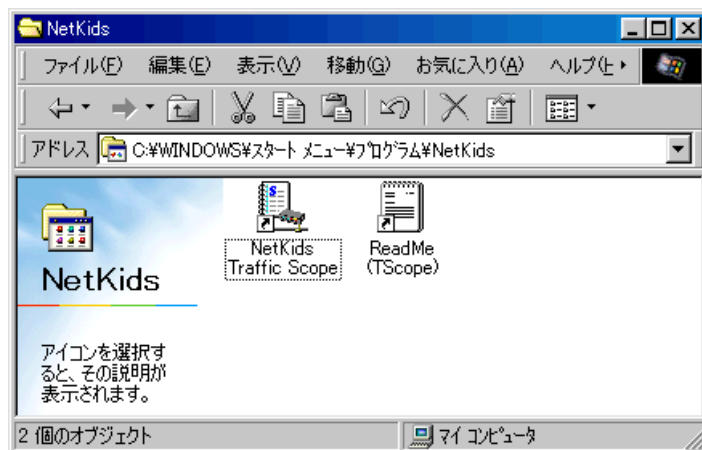
- a) ショートカットのコンテキストメニューの「管理者として実行」を行う。
- b) ショートカットメニューのプロパティ、互換性タブの特権レベル設定で、「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックする。
- c) UAC 機能を無効にする。

2.2 インストール

インストールは NetKids シリーズ インストール CD の
¥TrafficScope¥nktscope_3xx.exe
を実行して行います。

過去バージョンの Traffic Scope が起動されている場合は必ずメニュー[ファイル]—[アプリケーションの終了]で終了させてから、インストールメニューの「変更」を行ってください。

インストール中は表示されるメッセージに従ってください
正常にインストールが終了すると図のようなアイコンが表示されます。



NetKids Traffic Scope V3 をダブルクリックすることで起動します。

インストールが完了したら、必ず、ReadMe(TScope)ファイルを開いて読んでください。
各種注意事項が記載されています。

2.3 制限事項

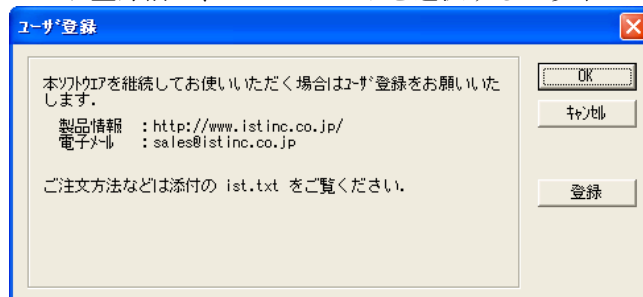
- 複数のSNMPエージェントに接続する場合は、接続数に応じたライセンス数をご購入いただく必要があります。
- 過去のバージョンとの同時使用はできません。
- Traffic Scope V3をインストールした監視用マシン1台(追加ライセンスで対象機器を増加させても)で、監視できるインタフェースの数は1,000までです。
また、対象インターフェースが400を超える場合はデータ受信間隔を5分以上に設定する必要があります。(無制限版ライセンスの場合も同様です。)

2.4 ユーザ登録

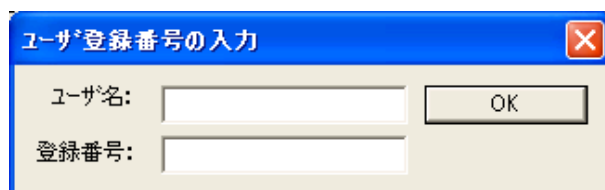
[ヘルプ] - [ユーザ登録] コマンドは、ユーザ名を確認したり製品のシリアル番号(登録番号)を製品に登録をする際に使用します。

注意：ユーザ登録を行わない場合は評価版として起動します。評価版の場合は、Traffic Scope 起動時に、[ユーザ登録] ダイアログが表示されます。ここからも登録を行うことができます。
[ユーザ登録] ダイアログで [OK] を押した場合は評価版として使用することが可能です。
評価版は 15 日間の期限付きで、スイッチライセンス (ポート数無制限) 2 台分まで監視可能です。

ユーザ登録前に、このコマンドを選択すると以下のようなダイアログが表示されます。



ここで、ユーザ登録するためには [登録] ボタンを押します。



上記のダイアログが表示されたら、このソフトウェアのユーザ名と 登録番号を入力して、[OK] を押します。

- ユーザ名には任意の名称を入力します。
- 登録番号にはパッケージに同梱されている、『ユーザ登録シート』に記載されている”登録番号 (シリアル番号)”を入力してください。

正しい登録番号を入力して [OK] を押すと、登録完了のダイアログが表示されてユーザ登録が完了したことを知らせます。

注意：

シリアル番号は、

- BAで始まる「本体、基本ライセンス」
- BBで始まる「本体、無制限版ライセンス」
- SI、SJで始まる「追加ライセンス」
- SG、SHで始まる「ライト版追加ライセンス」(論理インタフェース数が10以下の機器で使用可能)

があります。

同時に監視を行う対象機器が 2 台以上で BA(基本ライセンス)の場合は、「追加ライセンス」を必要対象機器台数分、”ユーザ登録番号の入力”画面から入力します。

BB(無制限版ライセンス)の場合は追加ライセンスの入力は必要ありません。
無制限版は登録ノード数の制限はありませんが、以下の制限事項の範囲でご利用ください。

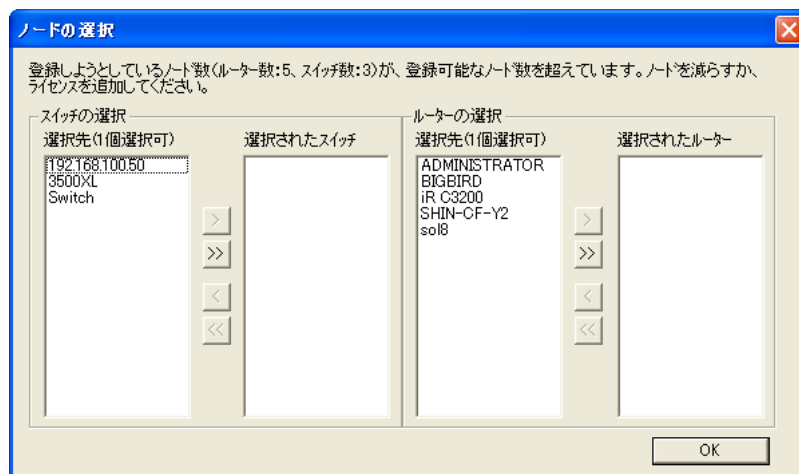
注意：監視用マシン 1 台（追加ライセンスで対象機器を増加させても）で、監視できるインタフェースの数は 1,000 までです。
また、対象インタフェースが 400 を超える場合はデータ受信間隔を 5 分以上に設定する必要があります。

ライセンスの考え方：

例) 監視する機器が 24 ポートのスイッチが 3 台で、3 ポートのルータが 2 台の場合
基本ライセンス×1 (スイッチ 1 台分)
通常ライセンス×2 (スイッチ 2 台分)
ライト版ライセンス×2 (ルータ 2 台分)
となります。

注意：ライト版追加ライセンスとは、ポート数(以下インタフェース数)に制限があり、10 インタフェース以下に設定しているネットワーク機器のみが追加登録できるライセンスです。
ここでいうインタフェース数は、物理インタフェース及び論理インタフェースの総数になります。物理的なポートが 10 以下でも、VLAN 設定等論理インタフェースを多く設定し、その数が 10 を超えてしまうと動作しなくなりますのでご注意ください。

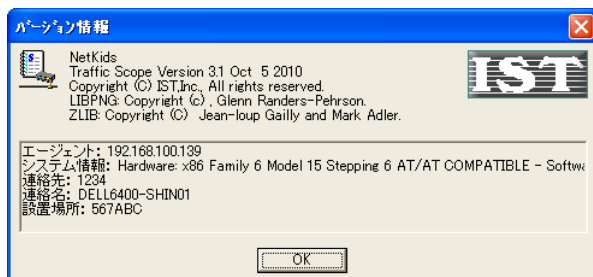
ポート設定編集画面で監視するノードを追加し、登録したライセンス数を越えた数のノードを追加して設定を保存しようとする、以下の「ノードの選択」ダイアログが表示されます。
モニタするノードを選択して OK を押すとモニタを開始します。



※追加したノード全てをモニタする場合は、対象ノード数分の追加ライセンスを登録した後、ポート設定編集画面でノードを追加してください。

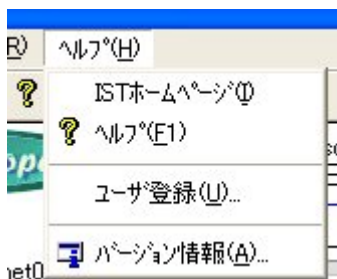
2.5 サポート

[ヘルプ] - [バージョン情報] コマンドは、Traffic Scope V3 のバージョン情報を表示します。また、以下のように Traffic Scope V3 を動かしているマシン情報の表示も行ないます。



2.6 ヘルプ

[ヘルプ] メニューからヘルプを参照できます。



3 クイックスタート

1. Traffic Scope を起動したのち、トラフィックを監視したいネットワーク機器をノード追加します。
 - a) インストール直後の場合は、ポート設定編集画面が表示されるので、その画面から監視対象ノードのホスト情報を追加します。
 - b) ノードを追加設定する場合は、[設定]－[ポート設定編集]メニューからポート設定編集画面を表示します。
2. 監視対象となる機器には **SNMP** エージェントが動作している必要があります。
お持ちのネットワーク機器のマニュアルなどを参照してあらかじめ **SNMP** エージェントの設定を行っておいてください。
3. 既に **SNMP** エージェントが設定されている機器がローカルセグメント上にある場合は自動的に検出され、ホスト追加の接続先のリストで選択して追加できます。
購入したライセンス内で対象機器を追加します。
4. 外部セグメントにある機器の場合は手動で追加します。
5. **OK** ボタンでポート設定編集画面を閉じると、**SNMP** エージェントと接続し、すぐにトラフィックのモニタが始まります。
トラフィック状況は、グラフウィンドウ、一覧ウィンドウにそれぞれ表示されます。

より詳しい使用方法に関しては、ユーザーガイドの各章をご参照ください。

4 Traffic Scopeの使い方

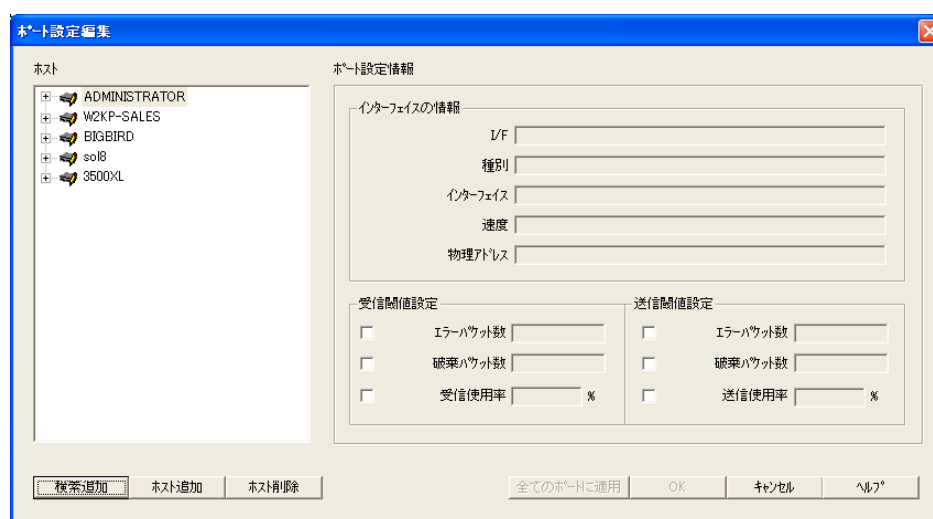
4.1 ノードの追加

4.1.1 ノード追加

モニタを行うノードの追加、削除は、[設定] - [ポート設定編集...]メニューから、ポート設定編集ダイアログを表示して行ないます。

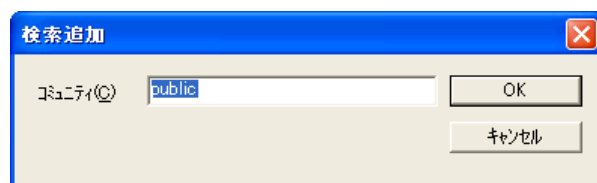
パスワードを設定しているときは、パスワードを入力してから下記の画面が表示されます。

※何もノード設定がされていない場合は、Traffic Scope を起動した後ポート設定編集画面を表示します。



4.1.2 検索による追加

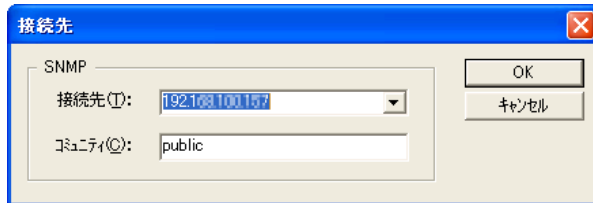
画面の [検索追加] ボタンをクリックすると検索追加ダイアログが表示されます。



コミュニティを入力し [OK] をクリックすると、自動で SNMP エージェントの検索を行い、反応のあった IP アドレスを接続先候補として表示します。同一セグメント上の SNMP 機器が検索されます。検索された IP アドレスはホストリストに表示されます。

4.1.3 接続先を指定して追加

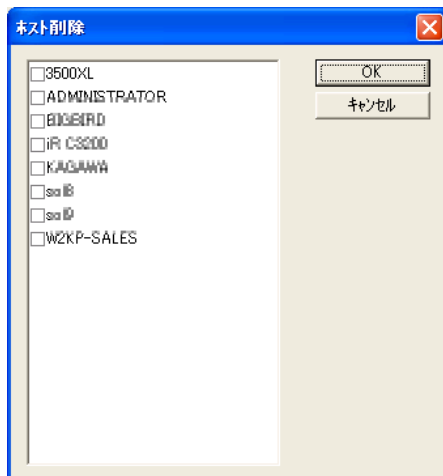
他セグメントやホストリストにリストされなかったノードをモニタする場合は、[ホスト追加] ボタンで接続先ダイアログボックスを表示し、接続先とコミュニティ名を指定して接続を行なってください。



接続先のリストボックスには、自セグメントの SNMP エージェントが起動している IP アドレスが表示されます。

4.1.4 ノードの削除

ノードを削除する場合は、画面の [ホスト削除] ボタンでホスト削除ダイアログを表示し、削除するホスト名を選択して [OK] を押します。



4.1.5 しきい値の設定

しきい値の設定をしてアラート通知を実行する事が出来ます。

設定は、ポート設定編集ダイアログで行ないます。

SNMP エージェント単位で一括設定するかポート毎に設定する 2 つの方法があります。

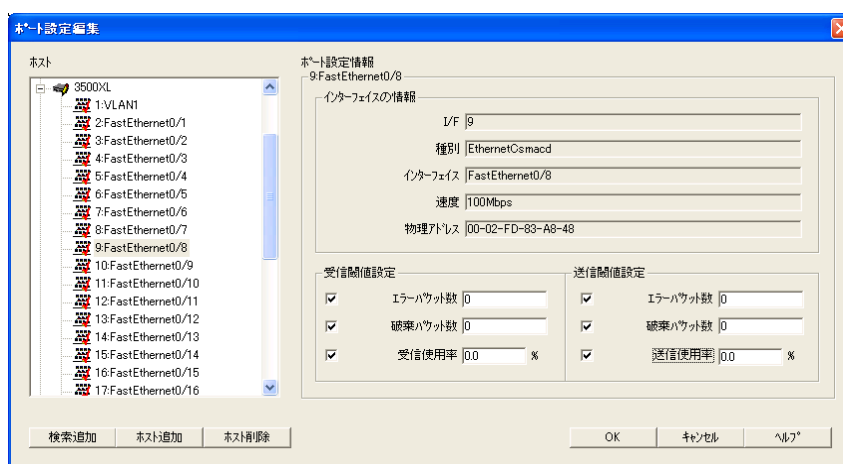
SNMPエージェント単位一括設定

左のホストリストに表示されているホスト名を選択し、設定したいしきい値を設定し、[全てのポート] に適用ボタンで一括設定ができます。

ポート毎設定

左のホストリストに表示されているホストのポートを選択し、設定したいしきい値を設定し、[OK] ボタンでポート毎に設定が出来ます。

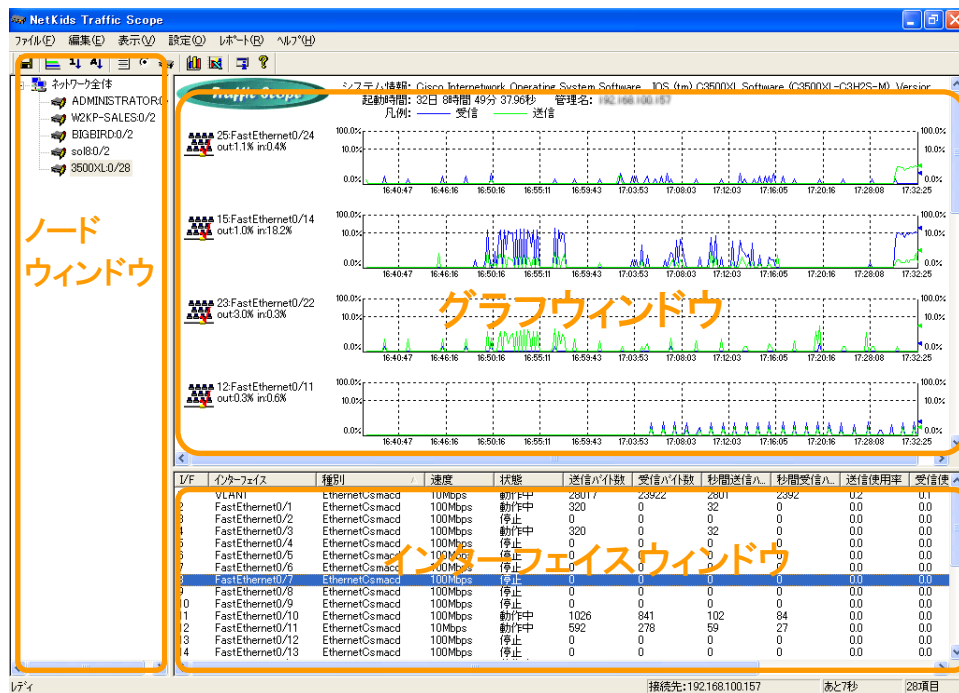
しきい値の設定は受信、送信共にエラーパケット数、破棄パケット数、使用率に各々設定する事が出来ます。



4.2 画面構成

4.2.1 メイン画面

NetKids Traffic Scope V3 の画面構成は以下のようになっています。




ノードウィンドウ

ノードウィンドウには、現在接続されている SNMP エージェントを表示しています。表示されている各機器をクリックする事で、グラフウィンドウとインターフェイスウィンドウの表示が切り替わります。

- ・監視ノードが停止したときアイコン上に  が表示されます。

グラフウィンドウ

グラフウィンドウには、現在接続している機器から SNMP によって取得したトラフィック情報を元に 推移グラフあるいは、使用量グラフを表示します。2 種類のグラフの切り替えは [表示]・[推移グラフ]/[使用量グラフ]メニューにて行います。

- ・しきい値を越えた場合監視対象のアイコン上に  が表示されます。

インターフェイスウィンドウ

インターフェイスウィンドウには、監視対象となった機器が備えている各インターフェイス毎に、その名称や 送受信バイト数などを表示することができます。一覧に表示したい項目の選択は、[設定]・[カラム編集...]メニューを使用します。

4.2.2 Traffic Scope の動作

Traffic Scope を起動すると、直ぐに追加された機器のモニタを始めます。
ウィンドウを最小化、閉じた場合は、ウィンドウは閉じますがモニタは継続して行っています。この時、タスクトレイにアイコンが表示されていますので、このアイコンを右クリックし“開く”メニューを選択、もしくはアイコンのダブルクリックでモニタ画面を表示します。

トラフィック統計レポート、アラーム統計レポート画面は、1024x768 の画面サイズ以上で表示を行ってください。

4.2.3 プログラムの終了

プログラムを終了する場合は、“ファイルメニュー – アプリケーションの終了”メニューから行ってください。画面右上の×印では画面はクローズしますが、プログラムは終了せず常駐しています。

トラフィック統計レポート、アラーム統計レポート画面は、Traffic Scope を終了しても画面は閉じません。それぞれ、“閉じる”ボタンから閉じてください。

プログラムを終了する時、変更を保存するとグラフウィンドウのグラフデータを保存し、再起動した時に終了時のトラフィックグラフから再開する事が出来ます。



4.2.4 カラム項目の説明

インターフェイスウィンドウにて表示可能な各カラム項目の意味を説明します。
各カラムの表示・非表示設定は[設定]-[カラム編集...]メニューかツールバーのカラム編集ボタンをクリックするか、又は一覧ウィンドウ上でマウスを右クリックして[カラム編集]メニューを選択して行います。

I/F	インターフェイス番号を表示します。
インターフェイス	インターフェイス名を表示します。
種別	インターフェイスの種別を表示します。
速度	インターフェイスの速度を表示します。
状態	インターフェイスの状態を表示します。
送信バイト数	送信バイト数の合計を表示します。
受信バイト数	受信バイト数の合計を表示します。
送信使用率	送信の使用率を表示します。
受信使用率	受信の使用率を表示します。
秒間送信バイト数	1秒当たりの送信バイト数を表示します。
秒間受信バイト数	1秒当たりの受信バイト数を表示します。
作成	インターフェイス項目の作成時刻を表示します。
物理アドレス	インターフェイスの物理アドレスを表示します。
設定状態	インターフェイスの設定状態を表示します。
受信エラーパケット数	受信エラーパケット数を表示します。
受信破棄パケット数	受信破棄パケット数を表示します。
送信エラーパケット数	送信エラーパケット数を表示します。
送信破棄パケット数	送信破棄パケット数を表示します。
コメント	コメントを表示します。

4.2.5 ツールバー

NetKids Traffic Scope は、以下のようなツールバーを持っています。

ツールバーの表示/非表示は、[表示]・[ツールバー]メニューを選択することで変更できます。



既に保存してあるデータファイルに現在のデータを上書き保存します。

([ファイル]・[上書き保存])



グラフウィンドウに表示されるグラフを使用量グラフに変更します。

([表示]・[使用量グラフ])



グラフウィンドウに表示されるグラフを推移グラフに変更します。

([表示]・[推移グラフ])



インターフェイスの表示順序を そのトラフィック量によってソートして表示します。([表示]・[トラフィック順にソート])



インターフェイスの表示順序を その名前によってソートして表示します。

([表示]・[名前順にソート])



インターフェイスウィンドウに表示するデータ項目の選択及び、表示順序の変更を行います。([設定] - [カラム編集...])



オプション設定ダイアログを表示して各種オプションの設定確認を行ないます。

([設定]・[オプション設定確認...])



ポート設定確認ダイアログを表示して各機器の各ポートの設定確認を行ないます。

([設定]・[ポート設定確認...])



トラフィック統計レポート画面を表示して、各トラフィックのレポートを作成します。([レポート] - [トラフィック統計レポート])



アラーム統計画面を表示して、アラーム発生 of 統計レポートを作成します。

([レポート] - [アラーム統計レポート])



バージョン情報ダイアログを表示します。([ヘルプ]・[バージョン情報...])



ヘルプを呼び出して表示します。([ヘルプ]・[ヘルプ])

4.2.6 アイコンの説明

NetKids Traffic Scope は、以下のようなアイコンを使用しています。

インターフェース種別アイコン

SNMP による情報取得によって判別された インターフェース種別に応じて以下のようなアイコンが使用されます。



EthernetCsmacd, Iso88023Csmacd



Iso88024TokenBus, Iso88025TokenRing



Fddi



BasicISDN, PrimaryISDN



PPP, Dsl, El, Ds3



SoftwareLoopBack



FrameRelay, Atm, DdnX25, Rfc877x25, Sdlc



その他

設定およびアラーム種別アイコン

しきい値の設定やしきい値越え、エラーの時に以下のようなアイコンが使用されます。



アラーム



しきい値設定済み



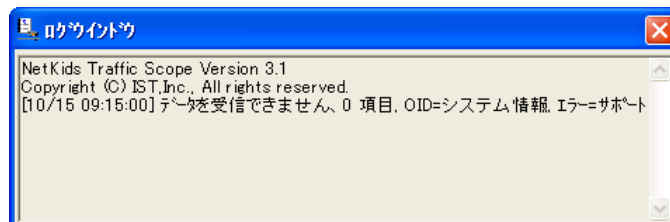
設定数値確認を要する



停止状態

4.2.7 ログウィンドウ

[表示]・[ログウィンドウ]メニューを選択すると、以下のようなログウィンドウを表示します。



ログウィンドウには、通信エラーやしきい値越えが発生した場合などにメッセージが表示されます。

ログウィンドウ上で右クリックをすることで、ポップアップメニューを表示することができ、表示されているメッセージのクリップボードへのコピーが可能です。

ログウィンドウに表示されたメッセージは、インストールフォルダ内の **waring.log** にも記録されています。

ログメッセージのクリア

メッセージを消去するときは、[編集]・[メッセージのクリア]メニューを選択してください。

4.2.8 インターフェイス情報の表示

インターフェイスウィンドウで対象のインターフェイスをダブルクリックするか、[編集]-[インターフェイス情報]メニューを選択すると、次のようなウインドウが表示され、インターフェイスの詳細情報を表示できます。

コメント欄にインターフェイスに対するコメントを記載できます。この内容は、グラフウィンドウ、インターフェイスウィンドウに表示されます。

グラフ表示チェックボックスは、当インターフェイスをグラフウィンドウに表示する、しないの制御に使用します。

コメント欄にはコメントの入力ができます。コメントはしきい値超えの通知設定で%Cで取得できるので、設置場所やポート情報の詳細などを設定しておけばどこで問題が起きているのかすばやく察知することが可能です。

[前へ]、[次へ]ボタンで、他のインターフェイス情報を表示することができます。

4.2.9 インターフェイス速度の変更

速度変更ボタンを押すと選択したインターフェイスの速度情報を変更できます。通常は変更する必要はありません。機器によって速度情報が正しく取得できない場合などに指定を行います。

指定は K バイト単位もしくは M バイト単位で行います。


例：64K 10M

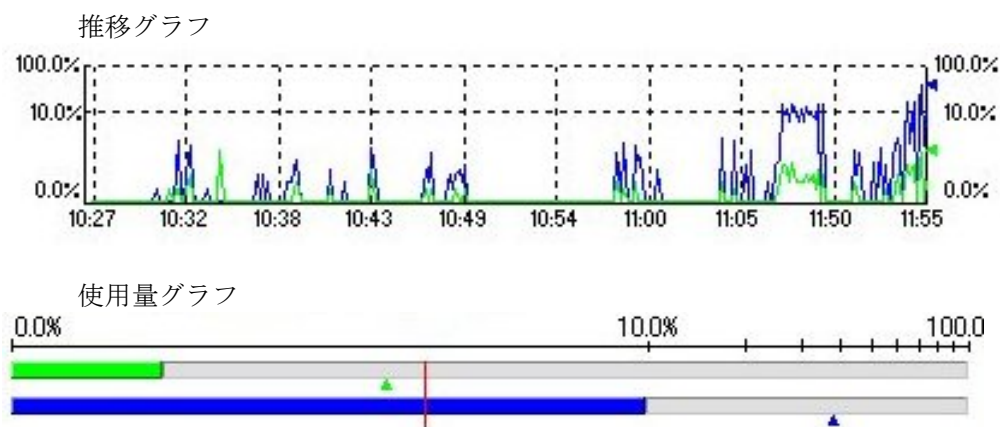
注意：インターフェイス速度を変更すると使用率の数値に影響があります。

4.3 表示モードの変更

4.3.1 グラフの変更

Traffic Scope ではトラフィック情報を、使用量グラフと推移グラフのいずれかの形式で表示することができます。

グラフ切り替えボタン、又は[表示]-[使用量グラフ]/[推移グラフ]メニューで、グラフウィンドウの表示形式を 使用量グラフと推移グラフのどちらの形式で表示するかを切り替えます。

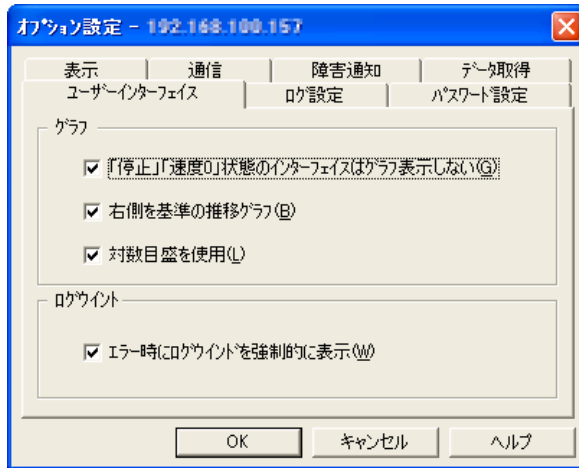


各グラフのメモリにはトラフィックの最大値がマーカーされます。

また、使用量グラフにはしきい値が赤い縦線で表示されます。

4.3.2 表示オプションの変更

[設定]-[オプション設定編集]から表示に関するオプションを指定できます。



「停止」「速度 0」状態のインターフェイスはグラフ表示しない

「停止」「速度 0」状態のインターフェイスはグラフ表示しない をチェックしておくことで、停止情報のインターフェイスは、グラフに表示しないようになります。

右側を基準の推移グラフ

右側を基準の推移グラフ にチェックすることで 推移グラフを表示する際 右側を基準(右端に最新のデータを表示)としたグラフの描画を行います。

対数目盛を使用

対数目盛を使用 オプションをチェックしておくことで、グラフウィンドウに表示されるグラフの通信量の目盛に対数目盛を使用するようになります。

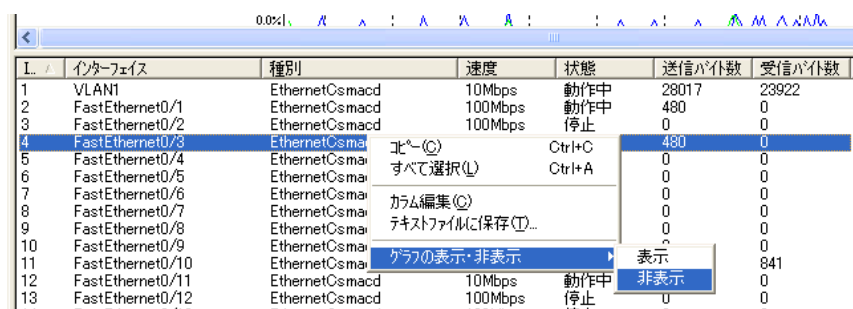
エラー時にログウインドを強制的に表示

エラー時にログウインドを強制的に表示 をチェックしておくことでエラーが発生したときにログウィンドウを自動的に表示してエラーメッセージを示すよう設定することができます。

4.3.3 インターフェイスの表示・非表示

グラフウィンドウに表示するインターフェイスの表示・非表示を選択できます。
次の2つの方法があります。

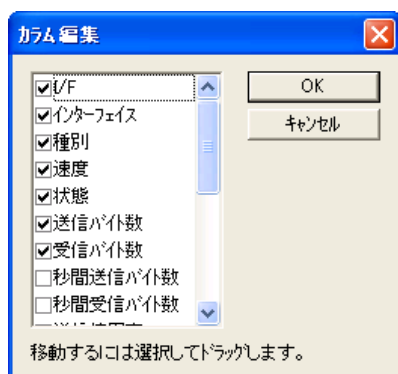
1. 該当インターフェイスのインターフェイスの情報ダイアログボックスを表示し（「表示」→「インタフェース情報」）、グラフ表示チェックボックスで表示・非表示の選択を行います。
2. 一覧ウィンドウ上で、該当インタフェースの上で右クリックし、グラフの表示・非表示メニューから、表示、非表示を選択します。



4.3.4 カラム項目の変更

「設定」-「カラム編集」、またはツールバーの  で、表示するデータ項目の選択 及び、表示順序の変更を行います。

このコマンドは、インターフェイスウィンドウにて有効となります。





データ項目の表示/非表示はチェックボックスをクリックして変更します。
データ項目の表示順番を変更する場合は、項目を選択してドラッグします。

4.3.5 表示順の変更

表示順の変更

グラフウィンドウのインタフェースの表示順序を変更できます。
トラフィック量によるソートと、名前によるソートができます。

トラフィック量によるソート： [表示]-[トラフィック順にソート] ツールバー：

名前によるソート： [表示]-[名前順にソート] ツールバー：

昇順、降順の切替えは、メニューを続けて選択することで行ないます。

一覧ウィンドウのソート表示

一覧ウィンドウに表示されている情報は、カラム毎の条件で昇順、降順にソートすることができます。

ソートを行なう場合は、ソートを行ないたい条件のカラムをマウスでクリックしてください。カラム項目の中にソートの条件が三角形の向きで表示されます。

状態	送信バイト数 ▼	受信バイト数
動作中	868439	3023937
動作中	61219	61219
動作中	40036	37594

続けてクリックすると、昇順、降順を切替える事ができます。

4.3.6 ノードリストの表示順の変更

ノードウィンドウのノードの表示順を指定できます。

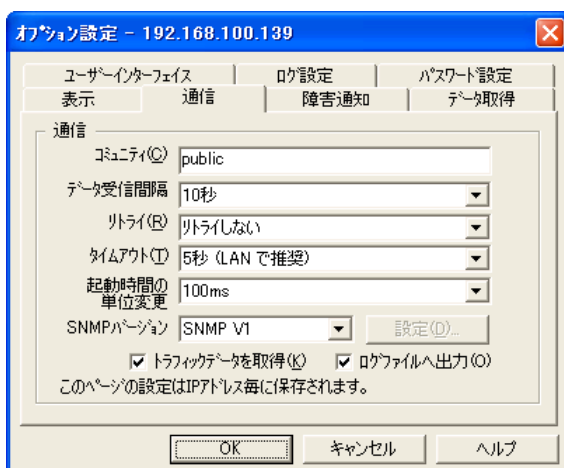
[表示]-[機器表示順の変更]メニュー、又はノードウィンドウで右クリックメニュー-[機器表示順の変更]メニューから機器表示順ダイアログを表示し、指定します。



4.4 通信設定（オプション設定）

4.4.1 通信設定

SNMP エージェントとの通信設定は、[設定] - [オプション設定編集] から通信の画面で行ないます。ここでの設定は各機器毎の設定となります。



コミュニティ

SNMP パケットを送信する際の コミュニティ名を設定します。
通常の機器ではデフォルトで「public」が設定されています。

データ受信間隔

SNMP による情報取得を行う間隔を設定します。
10 秒、15 秒、30 秒、1 分、5 分 から 選択可能です。

リトライ

SNMP に情報取得に失敗した場合のリトライ回数を設定します。
リトライしない、1 回、2 回、3 回、4 回 より 選択可能です。

タイムアウト

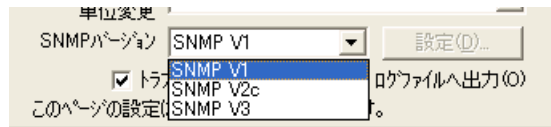
SNMP パケットの通信タイムアウト値を設定します。
1 秒、2 秒、5 秒、15 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分、10 分より選択可能です。
LAN 環境では 5 秒、WAN 環境では 30 秒 程度の設定をお勧めします。
SNMP データ取得エラーが頻発する場合は頻発する場合はタイムアウトが発生している可能性が考えられます。そのような場合にはタイムアウトの時間やリトライ回数を多めに設定してください。

起動時間の単位変更

起動時間の単位を設定します。対象の機器の MIB によって、システム起動時間を 100ms で返すのか 1000ms で返すのか、異なっています。
100ms、1000ms より 選択します。

SNMPバージョン

トラフィックデータを取得する SNMP バージョンを選択します。



SNMP V1 : SNMP V1,32 ビットカウンタ(ifInOctets, ifOutOctets) を参照

SNMP V2c : SNMP V2c,64 ビットカウンタ(ifHCInOctets, ifHCOctets) を参照

SNMP V3 : SNMP V3,64 ビットカウンタ(ifHCInOctets, ifHCOctets) を参照

ターゲット機器が SNMP の 64 ビットカウンタをサポートしている場合、64 ビットカウンタでのトラフィックモニタを行うことができます。

参考：

32 ビットカウンタでトラフィックをモニタする場合、データ受信間隔が 1 分の時に平均トラフィック値が約 32.5MByte/sec を越えていると正常なトラフィック値を取得できなくなります。高速なインタフェースをモニタする場合は、64 ビットカウンタでのモニタを検討してください。

注意：

64 ビットカウンタを参照する場合、データ受信間隔が短いと正しくモニタできていないように見えることがあります。これは、ターゲット機器の MIB 情報更新間隔がデータ受信間隔より長い場合です。データ受信間隔を 1 分以上に設定するか、ターゲット機器の MIB 情報更新間隔を変更することで正しく表示できます。

設定（SNMP V3 設定）

SNMP バージョンを SNMP V3 を選択した時は、設定で SNMP V3 のセキュリティ設定を行ってください。

SNMPV3 設定

セキュリティレベル: NOAUTH_NOPRIV

ユーザ名:

コンテキスト名:

コンテキストエンジンID:

認証プロトコル: NONE

認証パスワード:

暗号化プロトコル: NONE

暗号化パスワード:

OK

キャンセル

セキュリティレベル :	セキュリティレベルを指定します。 NOAUTH_NOPRIV/AUTH_NOPRIV/AUTH_PRIV 必要に応じて以下の項目の設定を行います。
ユーザー :	ユーザー名を指定します。
コンテキスト名 :	コンテキスト名を指定します。
コンテキストエンジン ID :	コンテキストエンジン ID を指定します。
認証プロトコル :	使用する認証プロトコルを選択します。 NONE/SHA/Md5
認証パスワード :	認証パスワードを指定します。
暗号化プロトコル :	使用する暗号化プロトコルを選択します。 NONE/DES/3DES/IDEA/AES128/AES192/AES256
暗号化パスワード :	暗号化パスワードを指定します。

トラフィックデータを取得

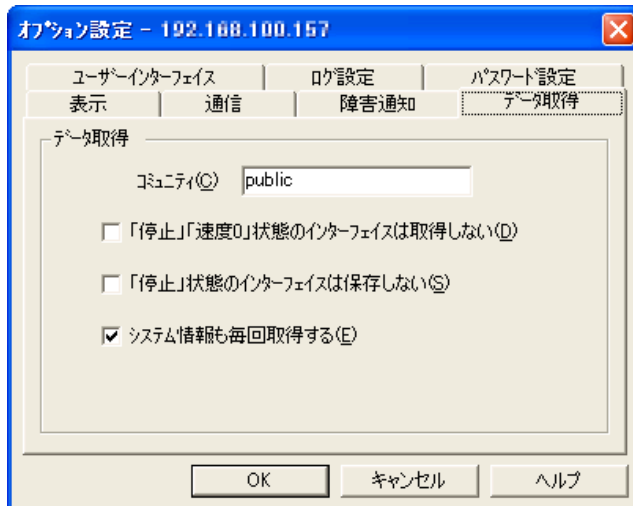
チェックをするとトラフィックデータを取得します。通常はチェックして運用してください。

ログファイルへ出力

チェックをするとトラフィックデータをログファイルに記録します。通常はチェックして運用してください。
チェックしていない場合、トラフィックレポートを参照することはできません。

4.4.2 SNMPデータ取得

SNMP 情報のデータ取得は、[設定] - [オプション設定編集] からデータ取得画面で設定を行います。



コミュニティ

SNMP パケットを送信する際のデフォルトとなるコミュニティを設定します。
この設定は、ポート設定編集などで SNMP エージェントを検索する際などにも利用されます。

「停止」「速度 0」状態のインターフェイスは取得しない

「停止」「速度 0」状態のインターフェイスは取得しない をチェックしておくことで、SNMP による情報取得の際 停止状態のインターフェイスに関する情報を取得しないようになるので 通信量を減らすことができます。
チェックしておくことをお勧めします。

「停止」状態のインターフェイスは保存しない

「停止」状態のインターフェイスは保存しない をチェックしておくことで、接続していた機器のデータファイルを保存する際に、停止状態のインターフェイスに関する情報を保存しないようになります。

システム情報も毎回取得する

システム情報も毎回取得する をチェックしておくことで、グラフウィンドウの最上部に表示されている情報を毎回更新するようになります。
起動時間を更新した場合などにチェックしておいてください。
通信量を減らすためには、チェックを外しておくことをお勧めします。

4.4.3 情報の更新

SNMP 情報は送信間隔で指定した時間毎に更新されますが、[表示]-[最新の情報に更新] コマンドで最新の情報に更新できます。

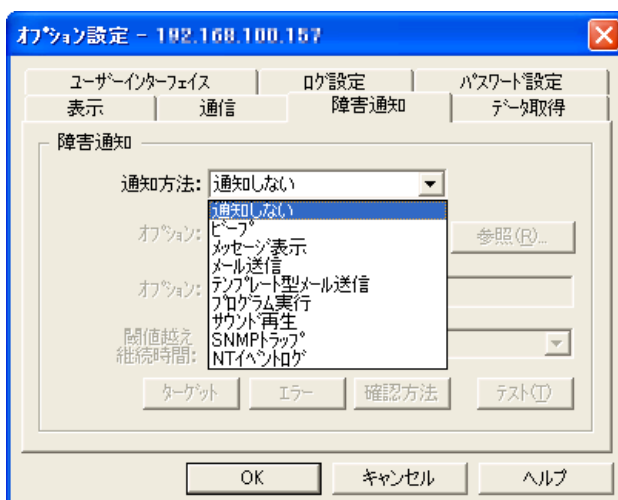
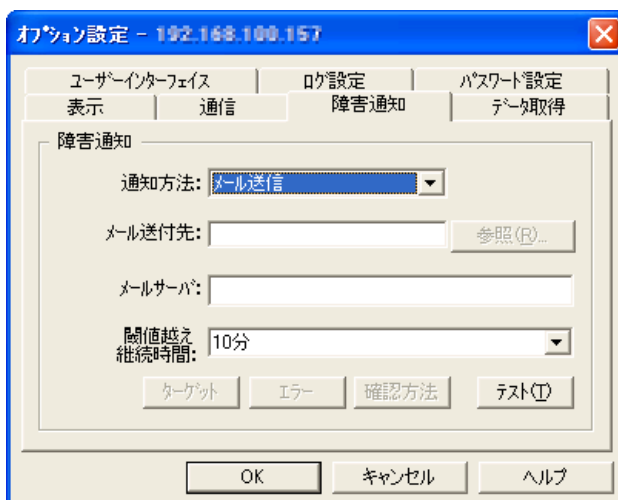
4.5 通知設定（オプション設定）

NetKids Traffic Scope では、しきい値を越えた場合に様々な方法で管理者に通知を行います。

選択する通知方法の種類によって、設定するオプションが変わります。

4.5.1 通知設定

[設定]-[オプション設定編集]の障害通知画面で設定します。



[ターゲット][確認方法][エラー]ボタン:

それぞれ %I %M %E をオプション設定欄に入力します。通知時には、ターゲットの IP アドレス、通知方法、エラーの文字列に置き換えられます。

[テスト]ボタン:

設定されている内容にて、通知が正常に行えるかどうかを確認します。

4.5.2 通知方法、オプションの設定：

メールの場合：

メール送付先：	メールの送信先を指定します。送信先は、' 'で区切って複数指定できます(ただし、cc:は使えません)。メールアドレスと','の間には空白を空けないでください。このフィールドには 128 文字まで入力できます。
メールサーバ：	メールサーバのアドレスを指定します。 From を指定する場合はメールサーバアドレスの後に空白を空けて -f オプションで指定します。省略すると From は netkids となります。 SMTP サーバーのセキュリティ設定により、From を指定しないと送信エラーになることがあります。基本的には例のように -f オプションも指定するようにしてください。 例： smtp.xxxx.xx.jp -f notify@xxxx.xx.jp

[メール設定]ダイアログ

メールサーバ：	SMTP メールサーバを指定します。
題名：	メールの題名を設定します。
送信先：	メールの送信先を指定します。送信先は、' 'で区切って複数指定できます(ただし、cc:は使えません)。128 文字以内で指定してください。
送信元：	メールの送信元アドレスを指定します。(デフォルトは netkids) 最近ではドメイン外からのメールを送信しないような設定のメールサーバが増えてますので、明示的に指定されることをお勧めします。
タイムアウト：	メールサーバとの通信のタイムアウト値を次から選択して指定します。 10 秒、20 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分
ユーザー：	SMTP Auth 等認証が必要な場合、ユーザ名を指定します。 この欄を空白にすると、SMTP Auth 認証なしのメールになります。
パスワード：	SMTP Auth 等認証が必要な場合、パスワードを指定します。
SMTP ポート：	メールサーバの送信先ポートを指定します。初期設定は「25」です。

プログラム実行の場合：

アプリケーション：	起動するアプリケーションのフルパスを指定します。
パラメータ：	アプリケーションに渡す文字列を指定します。
	文字列には以下の特殊シンボルが使用できます。
	%C:設定したコメント文字列
	エラーメッセージ
	%E:フォーマット：日時、IP、インターフェースNo、しきい値エラー内容
	%I:監視対象アドレスまたはホスト名
	%M:確認方法
	%D:確認日時

サウンド再生の場合：

ファイル名：	起動するサウンドファイル(*.wav)のフルパスを指定します。
--------	---------------------------------

SNMP トラップの場合：

送信先：	SNMP トラップを受信するサーバ名(企業 OID,コミュニティ名)を指定します。 指定方法は、 サーバ名:企業 OID:コミュニティ とし、企業 OID、コミュニティは省略可能です。企業 OID、コミュニティのデフォルト値はそれぞれ、9999, public です。 例：10.100.20.2:9999.1.2.2:public
送信文字列：	SNMP トラップとして送信する文字列を指定します。 送信文字列には、プログラム実行のパラメータと同じ特殊シンボルが使用できます。

Windows NT イベントログの場合：

イベント ID：	イベント ID を指定します。デフォルトは1になります。
ログ文字列：	イベントログへ書きこむ送信文字列を指定します。 送信文字列には、プログラム実行のパラメータと同じ特殊シンボルが使用できます。

4.5.3 テンプレート型メール通知について

通知方法として「テンプレート型メール送信」を選択した時の設定方法です。

[メール送信設定]ダイアログ

各オプションの意味を下表に示します。

メールサーバ :	SMTP メールサーバを指定します。
題名 :	メールの題名を設定します。下記の特種シンボルが利用可能です。
送信先 :	メールの送信先を指定します。送信先は、' ' で区切って複数指定できます(ただし、cc:は使えません)。128 文字以内で指定してください。
送信元 :	メールの送信元アドレスを指定します。(デフォルトは netkids) 最近ではドメイン外からのメールを送信しないような設定のメールサーバが増えてますので、明示的に指定されることをお勧めします。
タイムアウト :	メールサーバとの通信のタイムアウト値を次から選択して指定します。 10 秒、20 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分
ユーザー :	SMTP Auth 等認証が必要な場合、ユーザ名を指定します。 この欄を空白にすると、SMTP Auth 認証なしのメールになります。
パスワード :	SMTP Auth 等認証が必要な場合、パスワードを指定します。
SMTP ポート :	メールサーバの送信先ポートを指定します。初期設定は「25」です。

メール本文はテンプレートとして記述します。テンプレートは複数定義することができるようになっており その中から選択して指定します。テンプレート中では以下の特殊シンボルが利用可能です。

特殊シンボル	
%I:	ターゲット(監視対象アドレスまたはホスト名)
%C:	設定したコメント文字列
%D:	確認日時
%M:	確認方法
%E:	エラーメッセージ フォーマット: 日時、IP、インターフェースNo、 しきい値エラー内容

4.6 ログファイル（オプション設定）

4.6.1 ログの記録

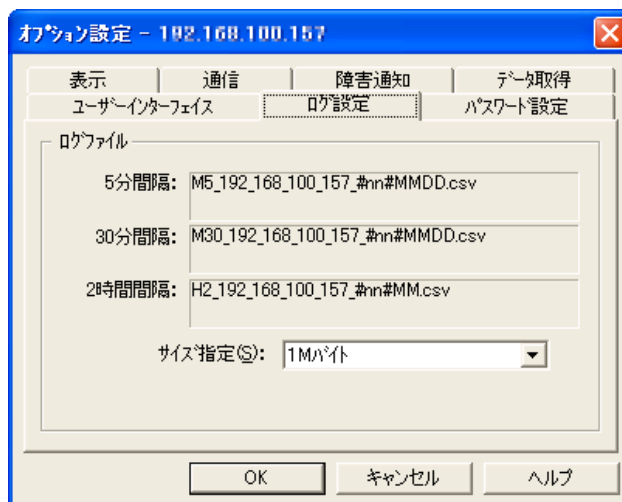
[設定]-[オプション設定] のログ設定画面でログファイルのサイズ指定（最大 2MB）を行います。

ログファイルは各インターフェース毎に、5 分間隔、30 分間隔、2 時間間隔のものが作成されます。

Traffic Scope には、このログファイルを利用して トラフィックレポートを作成する機能があります。([ファイル]-[レポート])

ログファイル名の確認

現在のログファイル名は、[オプション設定編集]ダイアログのログ設定画面を見ることで確認できます。



ここには、現在接続している機器の 通信量を保存するログファイル名が表示されています。

ログファイルは、Traffic Scope のインストールフォルダ下の Log フォルダの中に、
IP アドレス ¥ Index ¥ 西暦 ¥ 日毎のログファイル
のように作成されます。

4.6.2 Traffic Scopeデータファイル

[名前を付けて保存...]コマンドは、現在のデータを Traffic Scope のデータファイルとして名前を付けて保存します。

[上書き保存]コマンドは、既に保存してある Traffic Scope のデータファイルに現在のデータを上書き保存します。

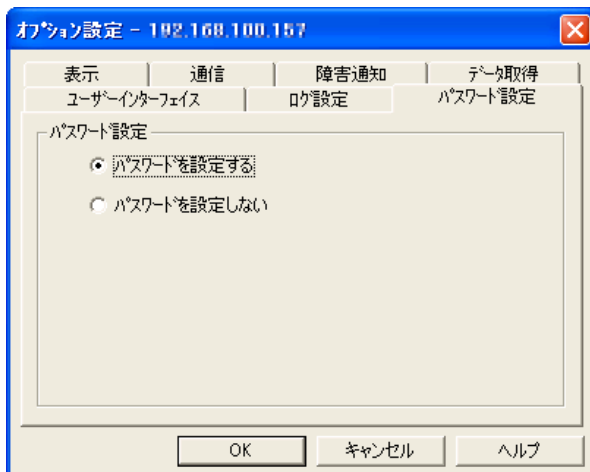
一度も保存していないデータに対してこのコマンドを選択すると、[ファイル]・[名前を付けて保存...]を選んだ場合と同じ働きをします。

4.7 パスワード設定（オプション設定）

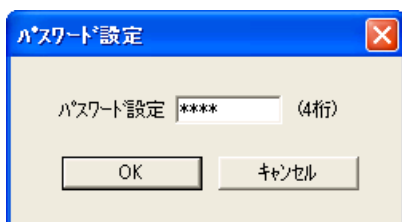
NetKids Traffic Scope では、パスワードを設定し、オプション設定の変更、ポート設定の変更を管理者のみに制限する事ができます。

パスワードの設定は、[設定]-[オプション設定編集]のパスワード設定画面から行ないます。

4.7.1 パスワード設定



1. パスワードを設定するにチェックしてください。

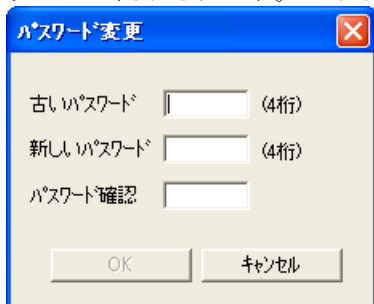


2. パスワードダイアログに 4 桁のパスワードを入力します。これにより、パスワードを入力しないとオプション設定編集やポート設定編集等は行なえません。

注意：パスワードの初期値は 1 2 3 4 です。

4.7.2 パスワード変更

パスワードを変更する場合は、[設定]-[パスワード変更]を選択すると下図のダイアログボックスが表示されます。こちらで変更が出来ます。



4.8 印刷

[ファイル] メニューの次の項目で印刷と印刷設定を行います。

4.8.1 印刷

印刷

[印刷] コマンドは、現在 表示されている **Traffic Scope** のデータを印刷します。
インターフェイスウィンドウから印刷をしたいインターフェイスを指定することでこのコマンドが実行可能になります。

印刷されるデータは、表示されている形式に依存するため、まず印刷したい状態に画面を設定してから[印刷] コマンドを実行してください。

現バージョンでは、一覧ウィンドウで印刷したときに印刷範囲の右側にはみだしたデータは、印刷されずに破棄されてしまいますので、横に長いデータを印刷する場合は、紙の向きをあらかじめ横にしたり、[設定]・[カラム編集]にて印刷されるカラムの数を減らすなどして対応してください。印刷可能範囲におさまっているかどうかは [ファイル]・[印刷プレビュー]にて確認できます。

印刷プレビュー

印刷プレビューの表示を行います。

印刷プレビューモードでは、[印刷], [次ページ], [前ページ] および、表示形式の [1 ページ]または、[2 ページ]の切り替えと、2 段階の[拡大] [縮小] と [閉じる]ボタンが利用可能です。

プリンタの設定

使用するプリンタの設定を行います。

印刷するプリンタを変更したい場合や、用紙の選択、印刷の向きなどの設定は、このコマンドを使用します。

4.8.2 ヘッダー／フッターの設定

印刷する際に利用される ヘッダーとフッターの値の設定を行ないます。

ヘッダーの指定

印刷時にヘッダーとして印刷したいものを設定します。

左側、中央、右側というのはそれぞれの表示位置を示しています。

"区切り線"をチェックしておくと ヘッダーの下に太めの横線が一本引かれます。

フッターの指定

印刷時にフッターとして印刷したいものを設定します。

左側、中央、右側というのはそれぞれの表示位置を示しています。

マクロ

ヘッダー/フッターの設定欄では、これらのボタンを押すことであらかじめ設定されている 総ページ数などを示す文字を現在のcaret位置に挿入できます。

以下に ボタン名、機能、挿入される文字を示します。

ボタン名	機能(意味)	文字
ページ	現在のページ数	&[PAGE]
ページ数	総ページ数	&[MAXPAGE]
日時	印刷された日時	&[DATE]
時刻	印刷された時刻	&[TIME]
タイトル	タイトル	&[FILE]
ファイル名	ファイル名	&[PATH]
項目数	総項目(データ)数	&[ITEMS]

4.9 その他

4.9.1 すべてコピー

インターフェイスウィンドウに表示されている内容をクリップボードにコピーします。
各項目はタブ区切りで区切られます。

[編集]-[すべて選択]コマンド、又は一覧ウィンドウ上でマウスを右クリックし、[すべて選択]メニューを選択してください。

4.9.2 テキストファイルに保存

インターフェイスウィンドウに表示されている内容をテキストファイルに保存します。
各項目はカンマ区切りで区切られます。


一覧ウィンドウ上でマウスを右クリックし、[テキストファイルに保存]メニューを選択してください。

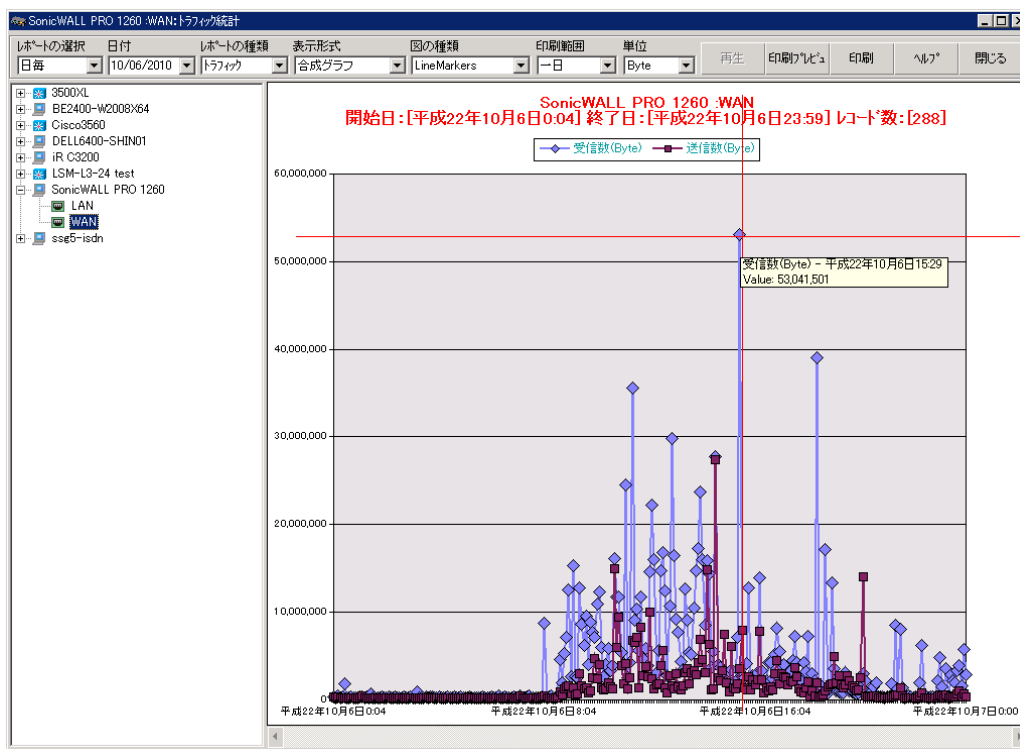
4.10 レポート

ログファイルから各種レポートを作成する事ができます。

Traffic Scope で作成するレポートは、トラフィック統計レポートとアラーム統計レポートがあります。

4.10.1 トラフィック統計レポート

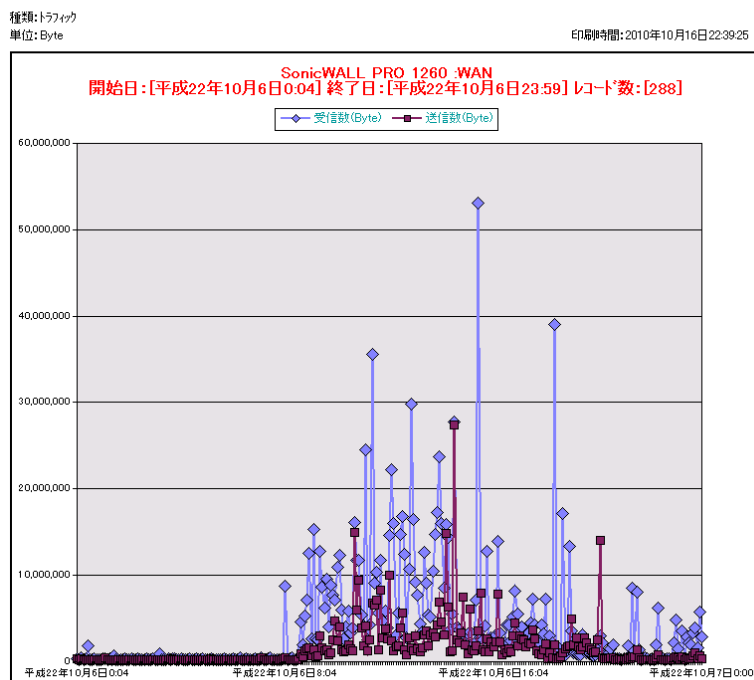
トラフィック統計レポートは[レポート]-[トラフィック統計レポート]または、ツールバーのを選択します。別ウィンドウでレポート画面が立ち上がります。




1. [レポートの選択]メニューより[日毎/月毎]のいずれかを選択できます。
日毎のデータは5分毎の間隔、月毎のデータは2時間毎の間隔で表示されます。
2. [日付]メニューでは直接日にちを入力するか、またはカレンダーが表示されますのでレポートしたい日付をワンクリックで指定できます。
3. [レポートの内容]メニューからは、バイト数、使用率、エラーパケット数の中からレポートしたい値を指定します。
4. [表示形式]メニューでは、右ウィンドウに表示させる形式を合併図（受信と送信のトラフィックを一つのグラフ上に表示）、分割図（受信と送信を別のグラフに表示）、詳細データの3つから選択します。
5. [図の種類]メニューでは、レポートしたいデータのグラフ形式を選択します。（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、レーダーなど18種類）この表示されたグラフ上のマーカーや頂点等にカーソルを添えると数値データの詳細が表示されます。
6. [印刷範囲]メニューは印刷したい日の間隔を指定します。

7. [単位]グラフ縦軸の表示単位を設定します
Byte、Kbyte、Mbyte、Gbyte、bit から選択できます。
8. [再生/停止]ボタンを使うと、右ウィンドウがグラフで表示されている時にグラフデータを時間を追って自動で再生されます。停止ボタンを押すと止まります。
9. 印刷プレビュー・印刷
下図のようなレポートが出力されます。

トラフィックレポート



4.10.2 アラーム統計レポート

トラフィック統計レポートは[レポート]-[トラフィック統計レポート]または、ツールバーの  を選択します。別ウィンドウでレポート画面が立ち上がります。

1. [開始日／終了日]メニューで、アラーム発生頻度をレポートしたい日時を指定します。直接入力するか、カレンダーが表示されますので日付をクリックで指定します。
2. [表示形式]メニューでは、右ウィンドウに表示させる形式を合併図（受信と送信のしきい値越えのアラームを一つのグラフ上に表示）、統計データ（受信と送信アラーム計）、詳細データの3つから選択します。
3. [図の種類]メニューでは、レポートしたいデータのグラフ形式を選択します。（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、レーダーなど18種類）この表示されたグラフ上のマーカーやグラフ線上等にカーソルを添えるとききい値越えの合計データの詳細が表示されます。
4. [印刷範囲]メニューは印刷したい日の間隔を指定します。
5. 印刷プレビュー・印刷でレポートが出力できます。

4.11 Web対応機能

Web ブラウザを用いてリモートから iMark による監視情報を確認することができます。
NetKids TrafficScope の Web ブラウザ対応には2つの種類があります。

1) ダイナミックに TrafficScope を管理する方法。

付属する NetKids Web Server を使うことで、Web ブラウザに TrafficScope の監視画面を直接表示することができます。

NetKids Web Server はデフォルトでは、ポート 7080 を使いますので、

http://localhost:7080/

http://ホスト名:7080/

のようにしてアクセスします。使用するポートを変更するには、タスクトレイに表示されている NetKids Web Server のアイコンをクリックし、メニューからオプション設定を選択し、オプションダイアログにて行います。

2) 定期的にHTMLファイルを出力する方法。

TrafficScope には定期的に HTML ファイルを出力する機能があります。この機能を有効にすることで、Microsoft IIS などの汎用的な Web サーバを経由して TrafficScope の画面を管理できます。

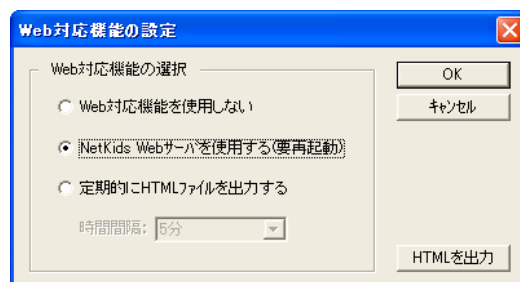
TrafficScope のインストール先ディレクトリに web というサブディレクトリが作成されますので、このディレクトリ以下を Web サーバで公開し、index.htm を参照します。


1)、2) の機能を同時に有効にしたい場合は、2) の設定を行ったのちに TrafficScope のインストール先ディレクトリにある nkweb.exe を実行してください。

注意：出力する画像の形式として png 形式を使用しております。インラインで png ファイルが表示可能なブラウザを利用してください。(前もってプラグインのインストールが行う必要があるブラウザもあるようです)

設定

設定は、「設定 - Web 対応機能の設定」メニューから行ないます。



注意：NetKids Web サーバは、TrafficScope 起動時に起動されます。「NetKids Web サーバを使用する」をチェックした後は iMark を再起動してください。NetKids Web Server が起動するとタスクトレイにアイコン  が表示されます。

5 付録

5.1 SNMPエージェントの設定方法

Windows の PC に SNMP エージェントをインストールすることにより PC のデータ IN/OUT の測定が行うことができます。

5.1.1 Windows PCに SNMPエージェントをインストールする方法

1. [ネットワーク接続]コントロールパネルを開きます
2. メニュー[詳細設定]の[オプションネットワークコンポーネント]を起動します。
3. コンポーネント一覧で「管理とモニターツール」を選択して、詳細ボタンを押します。
4. 管理とモニターツールのサブコンポーネント一覧で「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 」にチェックをし OK ボタンを押します。
5. あとは、画面の 指示に従って進めてください。SNMP のプロパティ設定が良く分らない場合はとりあえずデフォルトのままでも問題ないでしょう。

5.1.2 YAMAHA RTシリーズにて SNMPエージェントを有効とする方法

この説明は、RT200i, RT140p, RT140i, RT140e, RT102i, RT80i Rev.3.00.02 のコマンドリファレンスを参照して記述しています。

設定したいルータに、管理ユーザにてアクセスして以下のコマンドを実行します。

<code>snmp community read-only <i>public</i></code>	SNMP による情報の読み出しを可能とします。最後の <code>public</code> の部分は任意の名前に変更することが可能です
<code>snmp host <i>any</i></code>	すべてのホストから SNMP によるアクセスを有効とします もしインターネットに接続しているルータなど外部からのアクセスが可能なマシンにて SNMP の設定をする場合は、 <code>any</code> の代わりに <code>ip-address</code> を指定してアクセス制限をかけることをお勧めします
<code>snmp syscontact <i>name</i></code>	管理者名を設定します。 <code>name</code> に任意の名前を指定してください
<code>snmp syslocation <i>name</i></code>	設置場所を設定します。 <code>name</code> に任意の名前を指定してください
<code>snmp sysname <i>name</i></code>	管理名を設定します。 <code>name</code> に任意の名前を指定してください

SNMP に関する設定値は `show snmp` コマンドによって確認できます。

5.1.3 Cisco社製のルータシリーズにて SNMPエージェントを有効とする方法

設定したいルータに、管理ユーザにてアクセスしてコンフィギュレーションモードにて以下のコマンドを実行します。

<code>snmp-server community <i>public</i> RO</code>	SNMP による情報の読み出しを可能とします。 <code>public</code> の部分は任意の名前に変更することが可能です もしインターネットに接続しているルータなど外部からのアクセスが可能なマシンにて SNMP の設定をする場合は、 <code>access-list</code> を設定してアクセス制限をかけることをお勧めします
---	---

5.2 Traffic Scopeのログファイル仕様

通信量を出力するログファイルは、監視対象となっている機器に備わっているインターフェース毎に 5 分、30 分、2 時間 間隔のものが それぞれ別のファイルとして作成されます。

ログファイル内容：

行頭が # で始まっている行には、コメント的な役割を持たせてあります。1 行目から 8 行目には sysDescr(システム情報)、sysContact(管理者)、sysName(管理名)、sysLocation(設置場所)、ifDescr (インターフェース情報)、ifType(インターフェース種別)、ifSpeed(インターフェース速度)、 ifPhysAddress(インターフェース物理アドレス)が記録されています。

通信量は カンマ 区切りで 日付、時間、入力(Byte/Sec)、出力(Byte/Sec)、入力サイズ(Byte)、出力サイズ(Byte)、入力使用率、出力使用率、受信したエラーパケット数、エラーで送信できなかったパケット数 として記録されています。

5.3 パトライトによる通知機能

Netkids シリーズではパトライトによる通知機能の連携をサポートしております。

「監視画面を注視していないと、ルータ・スイッチ等の障害発生が分からない」とか、「遠隔地で発生した障害や異常通信をリアルタイムで知りたい」といった場合などに、パトライトを利用することにより、音（ブザー音）と光（基本は赤、黄色、青の点等、点滅）で管理者に通知します。また、本バージョンよりターゲット機器毎に通知設定が可能となり、機器に応じて点灯する色を分けたりするなどの細かい設定が可能となりました。

パトライトはLAN接続するネットワーク型とPCに直接接続するRS-232C接続型から運用の形態に応じて選ぶことができます。

ご購入ご希望の際は弊社営業部までご一報下さい。

※PATLITE 及びパトライトは株式会社パトライト社の商標登録です。

NetKids Traffic Scope V3.1 ユーザーズガイド

Copyright© Integrated Systems Technologies, Inc All Rights Reserved.
発行/企画/編集/著作 : 株式会社 アイ・エス・ティ

株式会社 アイ・エス・ティ
〒171-0042 東京都豊島区高松 1-10-2
NH 西池袋ビル 7 階
TEL 03-5917-5630 FAX 03-5917-5631
URL <http://www.istinc.co.jp/>
e-mail: info@istinc.co.jp
support@istinc.co.jp
(技術的なお問い合わせ)

不許複製・禁無断転載